

RAIN RFID で製造の効率性を向上

■ 極小部品の自動トラッキングにより、製造工程を大幅に改革

グローバル企業向けに製品の企画、開発、製造をサポートしています。同社のビジネスモデルでは、製造工程の中で大量の物品や資産（仕掛品、カート、完成品、工程治具など）を管理する必要があります。Impinj のRAIN RFID を活用することで、工場内の各工程で手作業で物を探したり、スキャンしたりする手間をなくし、移動する部品などをひとつひとつ自動でトラッキングできるようになりました。

リアルタイムのデータとレポート機能の向上により 生産の合理化を促進

製品の製造開始から完成までには、各工程で細心の注意が求められます。手動でのトラッキングでは効率が悪く、データ収集で遅延が発生していることに気付いた同社は、Impinj プラットフォームをベースとしたトラッキングシステムを導入し、製品開発全体を通して製品のモニタリングを自動化しました。Impinj Monza R6-Pチップ入りのタグが各アイテムに取り付けられています。Impinjゲートウェイとリーダーの組み合わせにより、生産工程全体で各アイテムをトラッキングします。



■ 製造の効率を向上し、生産を最適化



リアルタイムでの在庫モニタリングにより部品ストックの効率化を実現

在庫および資産をリアルタイムでモニタリングすることにより、常に正確な在庫レベルを維持し、生産ラインの効率を評価できるようになりました。これにより生産効率が向上し、必要に応じた適切な部品の供給が可能になりました。また、多品種少量生産品の先入れ先出し管理の効率化も達成しました。



生産工程全体における手動スキャンとトラッキングの手間を削減

配送や荷受け、物品の転送などの作業を削減することで効率が向上し、生産ラインを含み大幅に時間が削減されました。生産ラインにおける全ての手動スキャンを置き換えることで、製品（完成品と仕掛品の両方）の探索にかかる時間を 97% 削減しました。



配送と運営の合理化

工場において RAIN RFID システムを本格的に導入した後、現場での運営に改善が見られました。可視性が向上したことで、エンジニアが製造現場の動きをより把握できるようになり、1つのコンポーネントの予測を立てるため必要なデータを入手できるようになりました。また、多品種少量生産品が倉庫を占める割合を 30% 削減し、出荷精度 100% を達成しました。